

—・—・くれよん通信—・—

NO.10

‘12夏

‘11年夏。夏と言えば・・・？お盆です。県外へ嫁いだ姉が子どもたちを連れて帰省したり、私の兄弟とその子どもたちが実家に集まるのが毎年の恒例です。人がたくさん集まったり、知らない人、雰囲気、どれをとっても息子にはしんどい日が何日も続きます。正直、その中で皆と一緒に過ごすことが私にとっても少ししんどいのです。

その頃、息子の一番好きな遊びは、自転車の乗ることでした。もちろん補助輪つきですが、かなりのスピードを出して、顔や体にあたる風を気持ちよさそうに乗っていました。幸い、現在住んでいる場所は駐車場がコンクリートで敷地内をぐるぐるまわったり、端から端までスピードを出して乗っても安全なところでした。ただ、ブレーキをかけることが出来ないため、止まるときは足を出すか、壁にぶち当たるか、転んで大泣きするか、そんな状況でした。

しかし、いつの頃からか、その敷地内では満足いかなかったのでしょうか。道路に飛び出し、アパートの周りをぐるりと回することを覚えてしまいました。そのたびに私は大声を上げ、「道路はダメ～！！！」と叫び、時には伴走して一緒にぐるぐる回っていたりしました。下の子どもたちもいるので時に抱っこし、時にはおんぶをしながら走って道路は端を走ることをどなりながらも何度も何度も教えていました。

もちろん、実家に戻っても、自転車に乗りたがります。しかし、あいにく実家は息子の自転車には危険がいっぱいの住宅地で、少し離れた空き地の周りをぐるぐる回るので、信号のない交差点もあり、出合いがしらの事故も予測されるため、息子が自転車に乗るときは常にわたしか主人が伴走し、車が来たら端によること、止まることを何百回と教えなくてはなりません。涼しい時期ならまだしも、真夏の炎天下ではすぐに汗だくになり、息子に追いつくためには相当の体力と精神力が必要になってきます。それを一日に何度も付き合わなくてはならないのです。

いつもは私たち家族だけです。息子も少しは落ち着いていられるのですが、みんなが集まりワイワイガヤガヤしているとどうしても外に出て自転車に乗りたがる回数も多くなります。我が家では、初めて園長と面談した2歳半の頃から約2年、テレビを家の中においていません。ですから、実家で常にテレビがついている状態も落ち着かなくなるのでしょうか。反応としては悪いことではないのですが、みんなが集まってテレビを見ていると消しにかかるのですから、せつかく集まった親戚にも悪い気がして、なるべく息子を外に連れて行くのですが、暑くて、なのに自転車に乗りたがる息子にいらだちを感じていたのも嘘ではありません。どうしてみんなと同じようにできないのか？私だって1年に一度しか会えない姉たちと一緒に話をしたりしたいのに・・・。1日過ぎるごとに疲労感といらだちがたまってきました。息子のことをよく理解した上で甘やかしたり、みんなと同じように扱ってくれる私の姉たちや姉の旦那様たちの心の広さが救いのお盆でした。

お盆も終わり、姉たちはそれぞれの嫁ぎ先へと帰っていきました。見送ったその日は朝から涼しい日で、息子も静かになった実家でいつものようにリラックスした表情でした。私は、息子に思いっきり自転車に乗せたくて近所の川べりの遊歩道へ連れて行きました。「好きなだけ自転車に乗っていいよ。いっぱい我慢したもんね。」そういう私の言葉に息子は少しペダルをこいで振り向き、「いいよ」と息子は加速し始めました。川を渡る風は心地よくて、おんぶして連れてきた下の子もスヤスヤと寝ていました。危険なことなどその時の私は全く考えず、橋から橋まで500mもあるのだから、途中で疲れて止まってくれるだろうとたかをくくっていました。息子は風が心地よいのでしょう。喜びの声を上げながら、どんどん加速し、時に立ちこぎまで始めました。小走りの私は遠くに見える遊歩道の先が道路でしかも車通りが多いことに気が付きました。「〇〇、止まって～～～！！！」と何度言っても息子の耳には届いていないのか、風に私の声がかき消されているのか、私の気持ちとは逆にどんどん加速していきます。私は怖くなって走り始めました。あまりの激しい走りにおんぶしていた背中の子の靴が脱げ、大きな揺れに目をさまし泣き叫び、同じくらい私は息子の名前を体がちぎれそうなほど、のどが破れそうなほど叫びました。どうしてお母さんの声が聞こえないの？なんでわからないの？その時私は一瞬立ち止まり、風になっている息子を見つめてしまいました。いつまでこの子の背中を追いかければいいの？追いかけるのをやめればこの生活に終わりが来るのかな？ほんの一瞬の思いでした。けれど次の瞬間、また私は走り出していました。息子の名前を叫びながら、あと5mで道路というところで息子はびたりと止まりました。そして、ぐるりと振り向き、なぜでしょうか、みけんにしわを寄せていました。息子に追いつくまでの記憶が全くありません。けれど、息子に追いついた瞬間、私は息子のほっぺたを思いっきり平手で打ち、「どうしてお母さんの声が届かないの～？」と息子にしがみつ、しばらく泣きました。我に返ったのはおそらく驚いてアパートのベランダから顔をのぞかせた住人の窓を閉める音を聞いた時でした。私は黙って息子の自転車をひっぱり、実家に戻りました。途中、自分でこぎたいとハンドルを握る私の手を振りほどこうとしていましたが、有無を言わず自転車とむすこを引きずるように帰りました。

実家に戻った私の形相を見て母が驚き、何があったのかと尋ねました。私は母に「お母さんに私の気持ちなんてわかるわけがない！私の辛さなんて。普通の子しか育てたことのないお母さんにはわかんないんだから！！」と、どうしようもない気持ちを母にぶつけてしまいました。母は黙って息子を抱きしめて何度も何度も頭を撫でて、最後に「お母さんをこまらせないでなあ・・・」と言っていました。母の言葉に、ほんの瞬間でも息子から逃げようとした自分が情けなくて泣きじゃくってしまいました。

‘12夏。また夏がやってきました。今年の夏は暑く、まだまだ残暑も厳しいですね。今年の夏は・・・？息子はどうだったかをお話する前に、一つコスモスでのエピソードをお話させてください。

7月に入ったある日、園長が朝からコスモスに来て子どもたちの様子を見てくださっていました。療育の中の一つにスピニングというのがあります。息子のスピンの様子を見て「あら？目が回っていないじゃない。いつから回らないの？ああそうだ。伝書遊びのときも落ち着かないで座っていらなくなってきてるね。吐くまで回しなさい。」「え？吐くまでですか？」「そう、吐いてもいいから。吐かなかつたら、30分でも1時間でもいいから。まず、回しなさい」「あの、ほかのロールマットとかは？」「いいえ、他はいいから、朝来たらとにかくスピニング、いいわね」「わかりました」園長は私にそれだけ言うとマッサージのやり方も一つ一つチェック。他のお母さんの様子も見て回り、「マッサージの子供の手の向きがみんなそれぞれバラバラじゃない。どういうこと？いい、こうするのよ。療育の一つ一つに意味があるの。適当にやれば適当な子にしか育たないのよ。先生方も、ほら、ちゃんとやらせなさい！！」

即、実行。やらずに後悔するよりは、とにかくやってみる。コスモスに来てあれこれ悩むよりもまずやってみること。それが身についた私は、翌日から始めました。スピニングは一つしかない所以他の子どもも使います。ですから、1分でも長く回せるように、8時過ぎには到着し、ほかの子どもたちが集まるまで30分回しました。翌日は20分くらい。吐くまでとはいきませんでしたが、鼻歌が止み、頭が下がり、気持ち悪い様子でうずくまるまで回しました。2日目の朝、コスモスから保育園に行く途中で園長に偶然会うと「ちょっと、あなた、ちゃんとスピニング回してるでしょ。私の言うことをすぐに守ってくれてありがとう。〇〇ね、とてもいい反応が見られたの。当たり前前の反応がね。落ち着いてきたでしょ。このままスピニング続けてね」。それから、今年のお盆まで約1か月半の間、ずっとスピニングのみ。時々期間があれば、ロールマットをやりませんが、回し始めて5分もしないうちに頭が下がるようになってきました。スピニングをおろした後は、しばらくの間起き上がることができず、ぐったりする様子が見られるようになってきました。

そんな状態で迎えたお盆でした。1年前は補助輪をつけていましたが、なんと少し前から補助輪を外しても乗れるようになり自由度も増しました。しかし、昨年のように私の声が届かないことはなくなりました。乗っている最中でも、ストップと言えど何とか止まってくれますし、ちゃんと私や主人の顔を見ながら乗る様子も見られました。そして、さらに嬉しいことにこの子どもたちが男の子チームでお風呂に入るとき、私は半分冗談で「〇〇もお兄ちゃんたちと一緒に入れば？」そういうと私や主人がいなくても服を脱ぎ、一人でお風呂場まで行けたのです。そして、風呂場をのぞき、でもやっぱり不安になったのか、戻ってきましたが、すぐに主人に声をかけて男の子チーム+主人で入浴することが出来ました。とても小さな出来事でしたが、いとこと一緒に過ごせた、一瞬でも仲間へ入ろうとした息子の行動に成長を感じた瞬間でした。

その後、スピニングのみで約2か月過ぎました。それまではコスモスの療育が終わると伝書遊びの時間で保育園の2階ホールに移動するときには私が一瞬でもいないと不安でたまらないという表情で泣き出したり、怒って頭を叩いたりする行動が見られていました。しかし、今では玄関でバイバイをしても自分一人で行けるようになりました。少し前にお友達が「〇〇くん、一緒に行こう」と手をつないでくれて、2階ホールへと消えていったのですがその間、一度も私を振り向くこともなく、泣き出すこともなく、お友達と手をつなぎながら行きました。その後ろ姿が頼もしくて、でもちょっぴり寂しくて、複雑な気持ちでした。

年長という自覚。仲間意識。親から離れて集団で過ごせること。どれをとっても大きな成長を見せた夏でした。

書いてくれたお母さんの文章をそのまま掲載しています

※スピニングについて

コスモスの療育技法のひとつで、「自閉的な人、落ち着きのない人」に効果的です。くるくる回すことで脳に直接響きます。～・・・感覚統合療法でも使うハンモックゆすりを、若干修正して使ってみました。ハンモックをモッコみみたいな形にして、本人を膝を抱いた形で縦につるした。まずスピニングをかけ、右回り・左回りにくるくと三十分ほど回転させた。自閉の人は普通は目が回らないものだが、さすがにこのときは真っ青になって吐きそうな様子を見せた。そこで、「ころはよし」とドクターストップをかけ、十二分に覚醒水準が上がったとみて、こんどは優しく横ゆらしをかけた。～

北島道之著「心のパズルが解けた」より 一部抜粋

